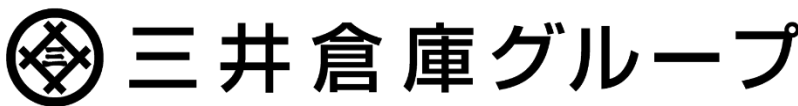


物流から価値を



三井倉庫ホールディングス株式会社

2024年3月期第3四半期決算説明会

2024年2月15日

## イベント概要

---

[企業名]	三井倉庫ホールディングス株式会社
[企業 ID]	9302
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2024 年度 第 3 四半期
[日程]	2024 年 2 月 15 日
[ページ数]	21
[時間]	16:00 – 16:33 (合計：33 分、登壇：15 分、質疑応答：18 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役専務取締役 中山 信夫 (以下、中山)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 登壇

---

**司会：**ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより三井倉庫ホールディングスの2024年3月期第3四半期決算説明会を開催させていただきます。本日の資料は、三井倉庫ホールディングス株式会社のホームページに掲載をさせていただいております。それでは中山専務、よろしく申し上げます。



<b>目次</b>	<b>▶ エグゼクティブ・サマリー</b>
	■ 2024年3月期 第3四半期（累計）決算内容
	■ 2024年3月期 決算見通し
	■ 株主還元・企業価値向上にむけて
	■ Appendix.1 財務数値詳細
	■ Appendix.2 会社概要

1

**中山：**三井倉庫ホールディングスの中山でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。それでは、2024年3月期第3四半期決算について、説明資料に沿いながらご説明申し上げます。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

<p>24/3期 3Q累計 実績</p>	<p><b>前期特殊要因の反動減、及び海上・航空運賃の下落から減収減益 人件費や燃料費高騰への対応として、オペレーション効率化を推進</b></p> <table border="0"> <tr> <td>営業収益</td> <td>1,975億円</td> <td>前年同期比</td> <td>▲15.7%</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>169億円</td> <td>前年同期比</td> <td>▲20.8%</td> </tr> </table>	営業収益	1,975億円	前年同期比	▲15.7%	営業利益	169億円	前年同期比	▲20.8%				
営業収益	1,975億円	前年同期比	▲15.7%										
営業利益	169億円	前年同期比	▲20.8%										
<p>24/3期 通期累計 見通し</p>	<p><b>23年8月2日公表の業績予想に沿って計画通りに進捗（業績予想の修正なし） セグメント毎に差異はあるものの、連結合計では業績予想の通り進捗中</b></p> <table border="0"> <tr> <td>営業収益</td> <td>2,730億円</td> <td>進捗率</td> <td>72.3%</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>215億円</td> <td>進捗率</td> <td>78.6%</td> </tr> </table> <p><small>(通期業績予想に対する3Q累計実績の進捗率)</small></p>	営業収益	2,730億円	進捗率	72.3%	営業利益	215億円	進捗率	78.6%				
営業収益	2,730億円	進捗率	72.3%										
営業利益	215億円	進捗率	78.6%										
<p>株主還元</p>	<p><b>配当性向30%を基準とした業績に連動した配当を実施（配当予想の修正なし）</b></p> <table border="0"> <tr> <td>中間配当</td> <td>67円（実績）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末配当</td> <td>75円（予想）</td> <td>期初予想比</td> <td>+8円（8月公表済み）</td> </tr> <tr> <td>年間配当</td> <td>142円（予想）</td> <td>予想配当性向</td> <td>30.0%</td> </tr> </table>	中間配当	67円（実績）			期末配当	75円（予想）	期初予想比	+8円（8月公表済み）	年間配当	142円（予想）	予想配当性向	30.0%
中間配当	67円（実績）												
期末配当	75円（予想）	期初予想比	+8円（8月公表済み）										
年間配当	142円（予想）	予想配当性向	30.0%										

2

最初に、第3四半期の実績および通期見通しのサマリーについてご説明いたします。2ページをご覧ください。詳細は後ほどご説明いたしますが、第3四半期の実績は前期特殊要因の反動減および海上・航空運賃の下落から、減収減益となりました。このような環境下においても、オペレーションの効率化を推進し、計画通りの利益を確保いたしました。また通期の見通しにつきましても、セグメントごとに差異はあるものの、連結合計では昨年8月に公表した業績予想に沿って進捗いたしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 前期特殊要因の反動減、海上及び航空運賃単価の下落を主因に減収減益
- 国際輸送の荷動きが低調に推移する厳しい事業環境のなか、国内での原価上昇への対応としてオペレーションの効率化と収受料金の適正化を推進

(単位：億円)

連結合計	23/3期 3Q	24/3期 3Q	前年同期比	増減率
営業収益	2,343	<b>1,975</b>	▲368	▲15.7%
営業利益	213	<b>169</b>	▲44	▲20.8%
〔 営業利益率	9.1%	<b>8.6%</b>	▲0.5pt	—
経常利益	221	<b>174</b>	▲47	▲21.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	132	<b>100</b>	▲32	▲24.4%

4

4 ページをご覧ください。第3四半期の実績につきましては、営業収益が前期比 368 億円減収の 1,975 億円、営業利益が 44 億円減益の 169 億円となっております。減収減益とはなったものの、原価上昇への対応として、オペレーションの効率化および収受料金の適正化を推進しております。経常利益および当期純利益も前期比減益となっております。当期純利益につきましては、前期発生した特別利益の反動減もございました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：億円)

事業セグメント	23/3期 3Q	24/3期 3Q	前年同期比	増減率
営業収益	2,343	<b>1,975</b>	▲368	▲15.7%
物流事業	2,278	<b>1,910</b>	▲368	▲16.2%
倉庫・港湾運送	1,076	927	▲149	▲13.9%
航空貨物FWD	453	273	▲180	▲39.8%
3PL・LLP	689	581	▲108	▲15.7%
陸上貨物運送	214	211	▲3	▲1.4%
内部取引消去	▲154	▲82	+72	—
不動産事業	71	71	▲0	▲0.2%
全社・消去	▲6	▲6	▲0	—
営業利益	213	<b>169</b>	▲44	▲20.8%
物流事業	196	<b>159</b>	▲37	▲19.0%
倉庫・港湾運送	73	60	▲13	▲17.1%
航空貨物FWD	64	40	▲24	▲36.8%
3PL・LLP	51	48	▲3	▲6.9%
陸上貨物運送	10	12	+2	+14.9%
連結調整等	▲2	▲1	+1	—
不動産事業	44	44	▲0	▲0.4%
全社・消去	▲27	▲34	▲7	—

- 海上運賃の下落による減収に加え、在庫調整を背景に荷動きが鈍化。
- 主に海外で前期に発生していたサプライチェーン混乱に伴う緊急的な輸送業務が当期は発生せず減収減益。

- 家電・精密機器の生産国から日本への海上・航空輸送にかかる運賃単価下落により減収

- 航空運賃の下落により減収減益（前期の「特殊要因」の剥落を含む）
- 在庫調整を背景に荷動き低調

- 国内3PLの取扱は堅調に推移
- マテハン導入による効率化を推進

- 積載効率の向上に努め備車費用削減、加えて適正料金収受の取組を進め増益

- DX投資の実行に伴うシステム関連先行費用増

5

5ページをご覧ください。セグメント別の業績についてご説明いたします。営業収益については、倉庫・港湾運送、航空貨物FWD、3PL・LLPの各セグメントが、国際輸送における海上・航行運賃の下落や低調な荷動きの影響を受け、減収となっております。

下段の営業利益をご覧ください。3PL・LLPについては、国際輸送の低調な荷動きを、国内の家電量販店向けの物流の堅調な荷動きや物流センター内のオペレーションの効率化でカバーし、減収となるも利益は横ばいとなっております。

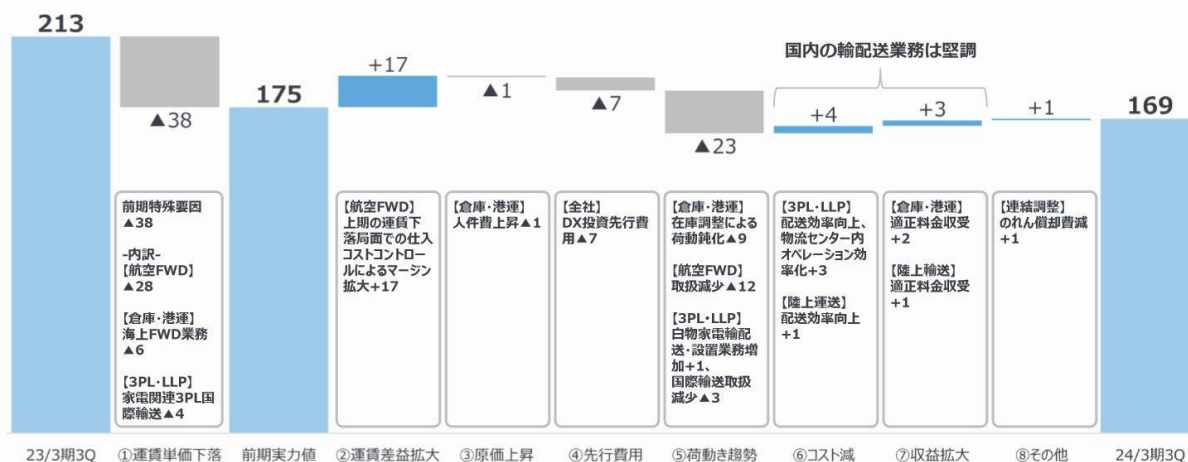
また、陸上貨物運送につきましては、トラックの積載効率の改善等のコスト削減施策、並びに収受料金の適正化により、利益率の改善を図り、増益となっております。その他、不動産事業は横ばい、全社費用はDX投資の実行に伴う先行費用が発生しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 上期は海上・航空運賃の下落局面での、仕入コストコントロールにより一時的にマージンが拡大
- 企業の在庫調整を背景に、国際輸送・貿易貨物の荷動きは低調に推移
- 国内輸配送業務では、トラック積載率向上や、物流センター内のオペレーションの効率化、及び適正料金収受の取組により、利益率向上・増益を実現

(単位：億円)



6

続きまして、営業利益の増減要因についてご説明いたします。6 ページのステップチャートをご覧ください。前期の第3四半期の実績 213 億円から、丸1の運賃単価下落の部分の前期の特殊要因 38 億円を除いた前期実力値 175 億円を発射台にご説明いたします。丸2の運賃差益の拡大につきましては、上期の運賃の下落局面において機動的な仕入を行ったことから、一時的にマージンが拡大したものでございます。足元での運賃の水準は、おおむね横ばいで推移しております。

丸3の人件費等の原価上昇や、丸4の先行費用のコストアップ要因に加えて、丸5の荷動き趨勢として示しております通り、お客様の在庫調整の動きがまだ継続し、国際輸送の荷動きが鈍化したこと等の減益要因がございました。

一方で、先ほど申し上げました通り、国内は相対的に堅調に推移しており、丸6の効率化によるコスト削減効果や、丸7の適正料金収受の取り組みの効果等もあり、第3四半期の営業利益は 169 億円となりました。

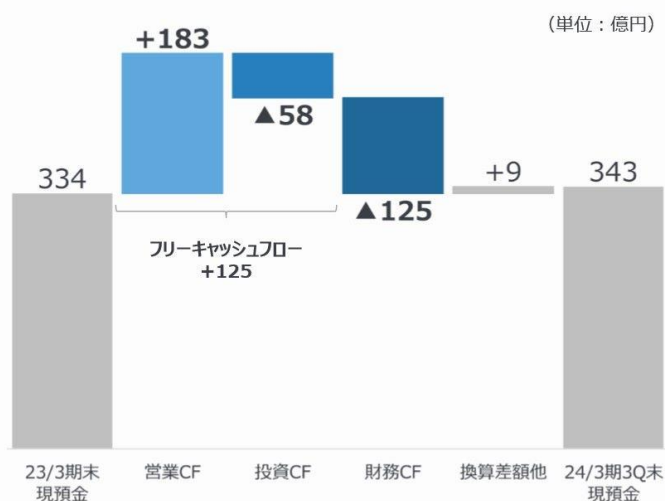
前期までの特殊要因がなくなり、国際輸送の荷動きが低調に推移する環境下においても、国内の3PL業務や陸上貨物輸送業務は堅調に推移しており、分散された事業ポートフォリオから安定的な収益を確保できております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



- 営業キャッシュフローは純利益の計上を主因に183億円のキャッシュイン
- 物流施設の維持更新投資、DX戦略に基づくソフトウェア投資、及び自動運転トラックによる幹線輸送サービスの事業化に取り組むパートナー企業への出資を執行



### キャッシュ・フローの主な内訳

• 営業CF	: +183
税金等調整前純利益	: +175
減価償却費／のれん償却費	: +73
売上債権／仕入債務の増減	: +16
法人税等	: ▲71
• 投資CF	: ▲58
設備投資	: ▲38
ソフトウェア投資	: ▲27
出資金払込	: ▲5
(小計) フリーキャッシュフロー	: +125
• 財務CF	: ▲125
借入金・社債増減 (ネット)	: ▲49
配当金支払	: ▲46
• 現預金の増減合計	: +9

7

7ページをご覧ください。キャッシュフローの状況についてご説明いたします。営業キャッシュフローは183億円のキャッシュインとなりました。主に当期利益の計上と、売掛債権の回収によるものです。

投資キャッシュフローは58億円のキャッシュアウトとなりました。主に物流施設の維持更新投資とDX戦略に基づくソフトウェア投資を執行した他、自動運転トラックによる幹線輸送サービスの事業化に取り組むパートナー企業への出資を執行しております。

財務キャッシュフローは資料に記載の通り、主に借入金の返済と配当金支払などにより、125億円のキャッシュアウトとなりました。これらの結果、当期末の現預金残高は343億円となりました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



- 着実な利益の積上げにより、自己資本比率やD/Eレシオが改善
- 今後の戦略投資実行への余力を備えた安定的なバランスシートを実現

(単位：億円)

連結合計	23/3期末	24/3期 3Q末	前期末比
総資産	2,587	<b>2,579</b>	▲8
現金及び預金	345	<b>353</b>	+8
売上債権	323	<b>302</b>	▲21
有形・無形固定資産	1,493	<b>1,489</b>	▲4
有利子負債（リース債務含）	926	<b>877</b>	▲49
借入金・社債	851	<b>811</b>	▲40
リース債務	76	<b>66</b>	▲10
自己資本	933	<b>1,016</b>	+83
自己資本比率	36.1%	<b>39.4%</b>	+3.3
D/Eレシオ	0.99	<b>0.86</b>	▲0.13

- DX戦略に基づきソフトウェア投資を実施し無形固定資産が増加（+15億円）
- 減価償却の進行により有形固定資産は減少（▲18億円）

- 自己資本の増減理由は、当期利益+100億円、配当▲46億円、為替換算調整勘定+17億円、有価証券評価差額+12億円

8

8 ページをご覧ください。バランスシートの状況についてご説明いたします。総資産は、売上債権の減少等から前期比 8 億円減少し、2,579 億円となりました。リース債務を含む有利子負債残高は 49 億円減少し、877 億円となりました。自己資本は利益の積み上げや、為替換算調整勘定の増加を主因に 83 億円増加し、1,016 億円となりました。これらの結果、自己資本比率は 39.4%、D/E レシオは 0.86 倍に改善しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 連結合計では23年8月2日公表の業績予想に沿って計画通りに進捗（業績予想の修正なし）
- セグメント毎に進捗率に差異はあるものの、事業環境変化に合わせ機動的にコストを抑制し、連結全体の営業利益は8月公表の業績予想の通りに進捗中

連結合計	23/3期 通期	24/3期 通期	前期比	増減率	(単位：億円)	
					24/3期 3Q	進捗率
営業収益	3,008	<b>2,730</b>	▲278	▲9.3%	1,975	72.3%
営業利益	260	<b>215</b>	▲45	▲17.2%	169	78.6%
経常利益	265	<b>207</b>	▲58	▲22.0%	174	84.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	156	<b>118</b>	▲38	▲24.4%	100	84.5%

10

10 ページをご覧ください。業績見通しについてご説明いたします。通期の業績予想について、昨年8月公表の見通しから変更はなく、営業収益は2,730億円、営業利益は215億円としております。足元の業績は、セグメントごとに差異はあるものの、連結合計では8月公表の業績予想に沿って進捗しております。

引き続き国際輸送の荷動きについては、先行き不透明な状況ではありますが、国内の堅調な業績推移を踏まえ、連結合計では計画通り進捗するものとみております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：億円)

事業セグメント	23/3期 実	24/3期 予	前期比	増減率	24/3期3Q	進捗率
営業収益	3,008	<b>2,730</b>	▲278	▲9.3%	1,975	72.3%
物流事業	2,920	<b>2,640</b>	▲280	▲9.6%	1,910	72.3%
倉庫・港湾運送	1,383	<b>1,320</b>	▲63	▲4.5%	927	70.2%
航空貨物FWD	568	<b>400</b>	▲168	▲29.6%	273	68.3%
3PL・LLP	879	<b>780</b>	▲99	▲11.2%	581	74.5%
陸上貨物運送	279	<b>290</b>	+11	+3.9%	211	72.7%
内部取引消去	▲189	<b>▲150</b>	+39	—	▲82	—
不動産事業	96	<b>96</b>	▲0	▲0.3%	71	74.2%
全社・消去	▲8	<b>▲6</b>	+2	—	▲6	—
営業利益	260	<b>215</b>	▲45	▲17.2%	169	78.6%
物流事業	239	<b>211</b>	▲28	▲11.8%	159	75.4%
倉庫・港湾運送	89	<b>83</b>	▲6	▲6.5%	60	72.8%
航空貨物FWD	78	<b>52</b>	▲26	▲33.6%	40	77.6%
3PL・LLP	62	<b>62</b>	+0	+0.6%	48	77.0%
陸上貨物運送	13	<b>15</b>	+2	+19.5%	12	77.8%
連結調整等	▲3	<b>▲1</b>	+2	—	▲1	118.3%
不動産事業	59	<b>57</b>	▲2	▲3.5%	44	76.8%
全社・消去	▲38	<b>▲53</b>	▲15	—	▲34	63.8%

• 企業の在庫調整の長期化を背景に、主に国際貨物の取扱が低調に推移

• 倉庫・港湾運送の国際貨物の取扱や、航空FWDは在庫調整を背景に低調な推移を見込む  
• 国内3PLや、陸上貨物は堅調な推移を見込む

• 不動産事業は、概ね計画通り進捗

• コーポレート部門において、事業環境変化に合わせて機動的にコストを抑制

11

11 ページをご覧ください。セグメント別の業績見通しを示しております。第3四半期の実績のスライドでご説明しました通り、倉庫・港湾運送、航空貨物FWD、3PL・LLPの三つのセグメントは、貿易貨物の低調な荷動きや海上航空運賃の単価下落により、前期比減収となる見通しです。

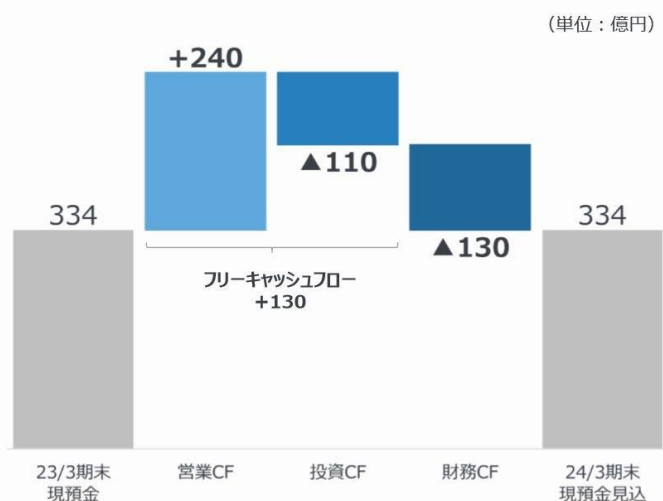
その一方で、国内の3PL・LLPおよび陸上貨物運送に関しましては、海外と比べ相対的に堅調な荷動きが継続していることに加え、トラックの積載効率の改善等のコスト削減施策、並びに収受料金の適正化により利益率の改善を図り、増益の見通しです。

不動産事業については、計画通り進捗し、前期比横ばいの見通しです。全社費用につきましては、前期比ではDX投資等の費用が増加する見通しであるものの、事業環境変化に合わせて、機動的にコストの抑制を図る方針です。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 営業キャッシュフローは240億円のキャッシュインを見込む
- DX投資、及び物流施設の維持更新投資の実行に加え、第4四半期に箱崎ビルマルチテナント化工事代金の一部を支出予定



キャッシュ・フローの主な内訳 (予想)

• 営業CF	: +240
減価償却費/のれん償却費	: +100
• 投資CF	: ▲110
設備投資	: ▲80
ソフトウェア投資	: ▲40
出資金払込	: ▲5
(小計) フリーキャッシュフロー	: +130
• 財務CF	: ▲130
借入金・社債増減 (ネット)	: ▲65
配当金支払	: ▲45
• 現預金の増減合計	: ±0

12

12 ページをご覧ください。キャッシュフローの見通しにつきご説明いたします。営業キャッシュフローは240億円のキャッシュインを見込んでおります。投資キャッシュフローは110億円のキャッシュアウトを見込んでおります。引き続き、設備の維持更新投資に加えて、DX投資を実施する予定であります。

また、第4四半期に箱崎ビルのマルチテナント化工事代金の一部を支出予定です。財務キャッシュフローにつきましては、借入金の返済および配当金支払により、130億円のキャッシュアウトを見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- D/Eレシオは1.0倍を切る水準で推移する見通し
- 戦略投資の実行に備えて投資余力を確保

(単位：億円)

連結合計	23/3期末 実績	24/3期末 予想	前期末比
総資産	2,587	<b>2,600</b>	+13
現金及び預金	345	<b>345</b>	+0
売上債権	323	<b>300</b>	▲23
有形・無形固定資産	1,493	<b>1,520</b>	+27
有利子負債（リース債務含）	926	<b>860</b>	▲66
借入金・社債	851	<b>785</b>	▲66
リース債務	76	<b>75</b>	▲1
自己資本	933	<b>1,030</b>	+97
自己資本比率	36.1%	<b>39.6%</b>	+3.5
D/Eレシオ	0.99	<b>0.83</b>	▲0.16

- DX戦略に基づきソフトウェア投資を実行し、無形固定資産の増加を見込む
- 箱崎ビルのマルチテナント化工事代金の一部を支払、有形固定資産の増加を見込む

13

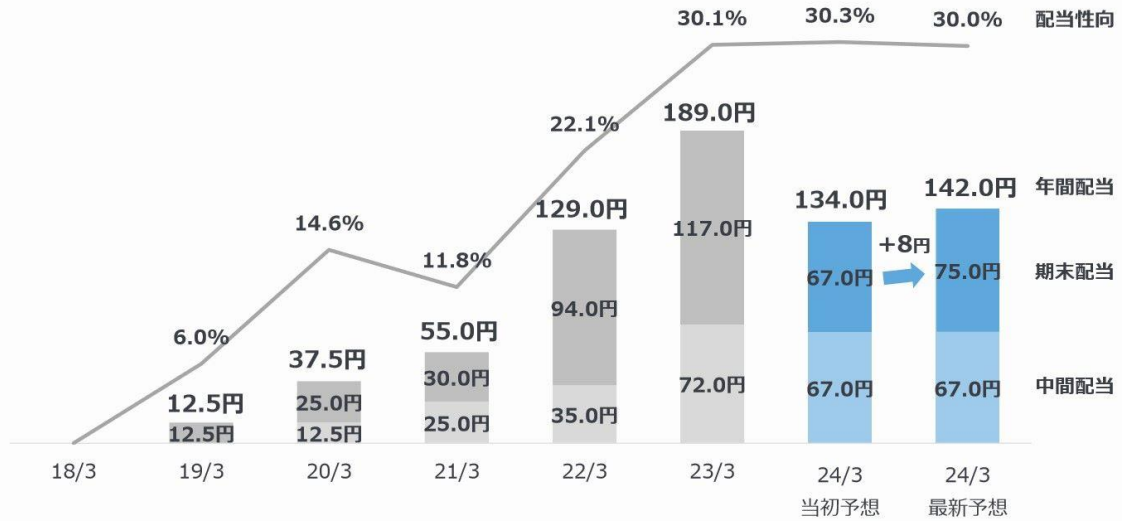
13 ページをご覧ください。バランスシートの見通しにつきご説明いたします。24年3月期末の有利子負債残高は、前期末比66億円減少し、860億円となる見通しです。自己資本は前期末比97億円増の1,030億円を見込んでいることから、自己資本比率は39.6%へ、D/Eレシオは0.83倍へ改善する見通しです。

中期経営計画の財務規律目標であるD/Eレシオ1.0倍を一時的に下回る見込みですが、これは来期実行予定の箱崎ビルのマルチテナント化工事を含む今後の投資計画を踏まえ、投資余力を確保しているものです。引き続き、中計最終年度に向けた中長期的な目線で、D/Eレシオ1.0倍を基準に、バランスシートをコントロールしてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 年間配当性向30%を基準に、業績に連動した機動的な配当
- 業績の上振れを期末配当予想に反映（期初予想比+8円の増配）



15

15 ページをご覧ください。株主還元についてご説明いたします。当社は、年間配当性向 30%を基準に、業績に連動した機動的な配当を実施しており、今期は通期で 142.0 円の配当を予定しております。なお、8月に発表させていただきました配当予想から変更はございませんが、5月発表の当初予想からは 8 円の増配となります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 企業価値向上を目指し、資本コストと株価を意識した経営を実行。現中計ROE目標は12%
- 資本効率や資本コストについてもテーマの1つとしながら、株主との対話を随時実施。

#### 資本コストを意識した経営の実現に向けた対応

- 資本コストを意識した経営を行う上で、ROEを重要な経営指標のひとつとして位置づけ
- 現行の中期経営計画2022においては、自社でCAPMに基づき計算した株主資本コストを越えるROE12%超の目標を設定
- 直近は目標を上回るROEで推移。引き続き高水準な資本効率の維持に努める（ROE実績の推移はAppendix P.25を参照）

#### 株価を意識した経営の実現に向けた対応

- PBRについての議論を取締役会で定期的に行い、適正な外部評価の獲得に向けた施策を検討、実施
- 当社HPの改訂や、投資家との継続的な面談などのIR活動強化。加えて、資本効率を意識した経営を目的に株式報酬制度を導入
- 今後も、サステナビリティを意識した開示の拡充や、積極的な株主との対話などを通じて、株式価値のさらなる向上を目指す

#### 株主・投資家との対話の実施状況等

- 2023年度第3四半期（9カ月）の対話の実績は以下の通り
  - 決算説明会：3回（延べ156社参加（前年同期比+14社））
  - 個別IR取材：延べ81件（前年同期比+30件）
  - 機関投資家エンゲージメント：13社（前年同期比+2社）
- （参考）2022年度の対話の実績
  - 決算説明会：4回（延べ191社参加）
  - 個別IR取材：延べ74件
  - 機関投資家エンゲージメント：11社
- 対話において頂いた貴重な意見を、企業価値向上のためにIR担当役員から取締役会に対して定期的なフィードバックを実施
- 直近の対話内容を踏まえ、投資家の皆様のニーズが特に高い物流事業の業績の内訳について、今期より開示内容を拡充

16

16 ページをご覧ください。最後に、当社の企業価値向上に向けた取り組みについて、足元の状況をご紹介させていただきます。当社は、企業価値向上を目指して、資本コストと株価を意識した経営を実行しております。現行の中期経営計画においては、最終年度の ROE 目標を 12%と設定し、これに向けて各種施策に取り組んでおります。

今期より、物流事業の業績の内訳について開示内容を拡充したことで、投資家の皆様との対話の内容がより一層深まったものと認識しております。現在は、資本効率や資本コストについても、対話におけるテーマの一つとしながら、株主・投資家の皆様との対話を随時実施しております。

以上で私からの説明を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 質疑応答

---

**司会 [M]**：それでは質疑応答に移らせていただく前に、まず決算発表前によくいただいておりますご質問をご紹介します。一つ目のご質問です。

**質問者 [Q]**：ダイハツやトヨタのリコールに関しては、緊急輸送の事業に影響はありますでしょうか。よろしく申し上げます。

**中山 [A]**：現在は、そのリコールの直接的な影響はございません。ただ、今後予想される新車開発期間の延長、投入車種の絞り込み、あるいは実車点検割合の増加等、変化点が想定されますので、しっかりとお客様とのコミュニケーションを取り、迅速に対応し、ビジネスチャンスを逃さないようにフォローをしていく所存でございます。以上です。

**司会 [M]**：続いてのご質問です。

**質問者 [Q]**：航空運賃、海上運賃について、単価下落はいつまで続くと見えていますでしょうか。お願いします。

**中山 [A]**：これはレーンにより若干ばらつきはありますが、海上・航空運賃ともに、ほぼ下げ止まった状況にあります。ご案内の通り、航海における治安悪化の影響から、足元では、これもレーンによりますが、幾分上昇基調にあります。今後につきましては、需給関係につきましてもまだ不透明な点がありますので、しっかりとマーケット動向、お客様の対応を注視しながら運営していきたいと考えております。以上でございます。

**司会 [M]**：それでは質疑応答に移らせていただきます。なお、お時間の関係上、全ての質問にお答えできない場合がございます。ご了承くださいませ。それでは最初のご質問をご紹介します。

**質問者 [Q]**：航空フォワーディングを中心とする国際輸送について、荷動きや運賃の今後の見通しと、3PLの来期の新規案件の動向を教えてください。よろしく申し上げます。

**中山 [A]**：国際輸送を中心としたクロスボーダーのフォワーディングの状況ですね。先ほど若干、市況の状況について触れましたが、一方で国際間の荷動きも地域間によってばらつきがありますけれども、アジア域内あるいはアジア発欧米、こういうところの荷動きを見ておりますと、まだコロナの前のレベルまで戻してないのかなということでございます。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





これが今後の各国の景気刺激策、あるいは金利政策等によって変動しうるものと見ておりますので、この点につきましても、各国の状況並びにお客様の対応スタンスといったものをしっかりと押さえながら業務を展開していきたいと考えておるところでございます。

一方、国内における 3PL 業務につきましては、これも説明の中で若干、触れましたけど、クロスボーダーの荷動きに比較すると、相対的に堅調な展開をしてきたかと見ておるところでございます。

確かに国内において、全般としては物価上昇により消費、なかんずく耐久消費財の売上の伸びは鈍い状況は継続しておりますが、私どものお客様につきましては新規の出店と、積極的な展開をされているお客様につきましてはしっかりとこれをフォローすることによって、われわれもビジネスの拡大ができておるということでございます。

今後の見通しにつきましては、これはクロスボーダーの領域と全く一緒に、国内における景気刺激策、消費刺激策がどういう形で今後展開していくのか。金利政策等の動向もありますし、目は離せないというふうに見ておるところでございます。以上です。

**司会 [M]**：続いてのご質問をご紹介します。

**質問者 [Q]**：二つです。国際輸送の第 4 四半期の見通しについてガイダンスをいただけますか。もう一つは、国際輸送は底打ちをいつごろと見ておられますか。単価と数量に分けて教えてください。お願いします。

**中山 [A]**：第 4 四半期の国際輸送の状況についてのご質問が第 1 点であります。そもそもこの第 4 四半期は、国際輸送につきましても裏シーズンになる。一つはニューイヤーの休みが多いことと、一大生産基地である中国における春節といったものがありますので、相対的にはその他の期に比べると荷動きは通年であっても弱い。

一方、他の地域については、アメリカは非常に消費は堅調で、中国からの貨物はある程度は動いていますが、アメリカの輸入国が、中国の比率が下がって、ベトナムとかインドとかが増えてきているということで。中身を見ますと[音声不明瞭]も非常に変化しているということで、そこに関与する物流業者も、お客様の動向によって取り扱いが増えたり減ったりするという変化点の影響が出てくるのではないかと見ていまして、しっかりその辺はフォローしていかないといけない。

一方、価格面では、先ほども触れましたけど、まだ航海における治安上の問題で喜望峰回りということで、運賃が高くなっておりますが、船そのものの供給が需要に追いつかないという状況までは至ってないので、過去 2 年間、経験したような船落ちが発生するとかっていう状況では現在もあり

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ませんし、近未来で言ってもそこまではいかないかと思っていますけど、こればかりは不確定ファクターがまだまだあります。パナマ運河の水不足による通行船舶数の削減等の影響も徐々には効いてきておりますので、しっかりと見ていかないといけない。

それから、じゃあ国際輸送の価格面、物量面で底打ちはいつなのかという議論であります。これはわれわれの関係されている企業さんといろんな対話をしておるんですが、なかなかプラスファクターとマイナスファクターがありまして、私の知る限り、いつから底を打って反転に向かうという明確な分析をされている方はまだいらっしゃらない。様子見。それだけ不確定要素が高いのが現在の状況かと認識しております。以上です。

**司会 [M]**：続いてのご質問です。

**質問者 [Q]**：3PL・LLP は堅調に推移しているということですが、通期の業績計画は減収、利益は横ばいとなっているのは需要が弱いということでしょうか。今後の国内需要をどのように見ていらっしゃるのか教えてください。

**中山 [A]**：先ほど申しましたように、クロスボーダーのフォワーディングに比べると国内ではしっかりとビジネスが展開できているかなという認識ですが、先ほど少し申し上げましたけど、やっぱり国内消費の本格的な回復という観点から言いますと、われわれの今、力を入れている 3PL、あるいは LLP の分野においても予断は許さないということ。

私どもは新規のお客様、店舗販売から e コマースへのシフトを進めて行かれるお客様をしっかりと押さえて、今、そういうお客様と物流設計に取り組んでいる先は何社かありますので、今後はこれらが花咲いてくると期待しているところでございます。われわれとしては、引き続き力を入れて拡大していく分野でありまして、お客様からの商流・物流の見直しニーズは非常に強いものがありますので、しっかりとこれに対応していきたいと考えています。以上です。

**司会 [M]**：続いてのご質問です。

**質問者 [Q]**：箱崎のマルチテナント化による来期以降の損益影響、リーシングの進捗、手応えについて教えてください。お願いします。

**中山 [A]**：現在いらっしゃるメインのテナントさんの契約が、本年 4 月に終了じゃなくて変更になりまして、賃貸スペースが約半分になるということで、今、現状復帰を進めていただいておりますのでございまして、これの後、われわれは新たなテナントさんを迎え入れるためのバリューアップ工事に入る。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



一方で、リーシングの営業活動を推進しております。現在までのところ、引き合いは非常に良いです。やはりこの港区、千代田区等を中心にしたいわゆるオフィスビル一等地に新たな供給もありますし、家賃も相当高くなっているということで、私どもの持っている箱崎ビルは、そういういったところに入るお客様ではない、別のお客様のニーズがしっかりとあることをマーケティングを通じて痛感いたしております。

ただし、私どもも安売りするつもりはございませんので、ここにしっかりとお客様と会話をし、できれば賃貸借期間もばらつきのあるポートフォリオにバリエーションを持たせたい、リスクヘッジもしながら、ということも考えながら今、リーシング活動を進めておることで。

一定程度の時間はかかると思いますが、必ず埋まるロケーション、それから専門家の判定でも資産のクオリティが非常に高いということで、評判が非常に良いということで、手応えを感じておる状況であります。以上です。

**司会 [M]**：続いてのご質問です。

**質問者 [Q]**：自動車や家電は、資料や事前質問で言及がありましたが、メディカルなど他の貨物で強弱など目立った動きはありますでしょうか。お願いします。

**中山 [A]**：いわゆるわれわれ、ヘルスケアと呼んでいるメディカル分野であります。施設を拡充し、フルに埋まって、非常に好採算、効率の良いビジネスを展開しておって、ここは倉庫事業部門の大きな収益の下支えになっておるところです。

一方で、われわれはさらに高度なバイオ医療関連のお客様とのビジネスを今、広げるべく営業活動を推進しております。一部成約もいただいております。ただ、この分野は、まだボリュームがそれほどついてこない。ただ、保険適用等、関係諸官庁からの承認を取って来られると急拡大するというので、外資系中心であります。しっかりとしたマーケティングもできておまして、それは近未来にわれわれのP/Lにも反映されてくると考えております。以上です。

**司会 [M]**：ご質問者はいらっしゃいません。中山専務、お願いします。

**中山 [M]**：本日はどうもご参加いただきましてありがとうございました。引き続き、よろしく願いいたします。

**司会 [M]**：以上をもちまして、三井倉庫ホールディングス株式会社 2024 年 3 月期第 3 四半期決算説明会を終了させていただきます。本日はご参加いただき誠にありがとうございました。

[了]

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

